

令和7年度 第1回山口県総合教育会議 会議録

1 日 時 令和7年9月10日（水）14:30～15:30

2 会 場 山口県庁4階共用第1会議室

3 開 会 （事務局）

4 知事挨拶

開会に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

教育委員の皆様方には、平素から本県の教育行政の推進に多大な御尽力をいただいていることに対し、改めてこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

また、本日は御多忙の中、御参集いただいたことに感謝申し上げます。

先月まで本県で開催されていた高校総体を観戦し、これまで切磋琢磨して練習を重ねてきた生徒たちが最後の一瞬まで粘り抜く姿に、どの瞬間も目が離せなかったし、私も本当に胸が熱くなった。

さて、直面する様々な課題を克服して、安心して希望と活力に満ちた山口県を実現していくためには、これからの本県を支える人材の育成が大変重要である。

人口減少が一段と深刻さを増し、本県の発展に不可欠な産業における人材不足等が顕著である中、私はそうした人材育成の役割を担う工業高校をはじめとした専門高校の魅力の向上について今後さらに取り組んでいく必要があると考えている。

同時に、地域を支える人材の育成も必要であり、ふるさと山口への誇りと愛着を持って地域の未来を自ら考え、主体的に切り開いていくことができる若者の育成にも取り組みたいと考えている。

こうした視点から、県内の若者を対象に「山口ならではの幸せな暮らし」を考えるワークショップ「やまぐちしあわせ会議」を来月開催する予定であり、ウェルビーイングの視点を通して、自分と地域に向き合うことで、自らの幸せを高めていくとともに、より山口を知ってもらい、好きになってもらう機会につなげていきたいと考えている。

教育委員会では、今年度、県立高校6校に探究的な学習活動等をさらに推進する文理探究科を設置された。地域に目を向け、地域への愛着を持って自分自身や地域の将来を切り開く人材が育つことを期待している。

また、人づくりについては、これまでの知事部局のプログラム等に教育委員会の御協力をいただいているところであるが、さらに連携を深めてその取組を県内の子どもたちに広く届けたいと考えている。

人づくりに関する連携協定を締結している東京大学先端科学技術研究センターの最先端の学術的知見等を活用した小中学生向けのプログラム「LEARN in やまぐち」は、今年度、市町教育委員会と連携して実施する。

今後も知事部局と教育委員会が緊密に連携し一体となって取り組むことで、ふるさと山口の未来を創る人づくりの取組をさらに充実させていきたい。

本日は「令和8年度の重点取組方針」の案についてお諮りをするとともに、「令和7年度の重点取組方針」の主要関係事業の取組状況を御報告させていただくことにしている。委員の皆様方には、本県の人づくりの取組のさらなる充実に向けて、忌憚のない御意見、御提案を賜るよう、どうぞよろしくお願いしたい。

5 議事概要（議事進行：知事）※委員発言：● 事務局説明等：○

（１）令和７年度重点取組方針主要関連事業の取組状況について

（２）令和８年度重点取組方針（案）について

○事務局から別添資料に沿って説明。

●和泉委員

毎年非常に広範囲な課題に対して、多種多様な事業を推進していただいている。この前半にかけても、関係部署を中心に御尽力いただいております多くの成果が出ていると思っている。また課題や対応についても御説明いただいたが、思わぬ課題やこれからまた解決していかなければならない課題等が出てきたと思うので、現場の声、保護者を含めた幼児児童、生徒、関係者の声をよく聞いていただきながら、関係部署の連携も深めていただき、引き続き実りのある成果を上げていただくようお願いしたい。

また、各市町、大学、企業との連携テーマによっては、連携を深めてオール山口県で対策を推進してもらいたい。また、令和８年度は高校無償化の影響が出るのではと懸念している。現在、次期学習指導要領の議論が少しずつ進んでいると思うので、その見通しも含めて必要に応じて柔軟な対応をとっていただきたい。

●村岡知事

高校無償化については、高校教育に大きく影響するところであり、県としてどういった人材づくりが必要なのか等、考えて対応していく必要があると思っている。引き続き議論しながら進めていきたい。

●木坂委員

総務省のホームページを見て今更ながら日本の人口の減り方が深刻であると感じている。「県内大学の若者活躍による観光力パワーアップ事業」はとても素晴らしく、中学生・高校生・大学生と観光業界との対話はとても良いと思っている。ただ、学年や校種が変わるとリセットされる難しさも感じている。例えば観光協会や付随する団体に事業の自主的な取組の促進を任せることで、また違った展開になると思う。観光と学生たちの活動の相性は抜群に良く、担い手作りに必ず寄与して、進学・就職で県内に残られる学生はもとより、仮に一旦県外へ出られた学生もふるさとのことをいつも気にかけて、また山口県に戻ってくるという可能性が高いのではないかなと思う。

●村岡知事

若者に観光の魅力発信や盛り上げに力を貸してほしいと思っているし、若者たちが地域に愛着を持ち、自分が頑張ってみようと思える非常にいいテーマであり、この取組を進めていきたいと思っている。山口への愛着や自ら発見し取組んで成果に結びつけていく体験は非常に重要であり、経験を通じて様々な力もついてくると思う。地域と協働しながら人材育成を行うことは大切な視点だと思って取り組んでいきたい。

●藤田委員

私は県内企業の経営者をしており、その視点でいろいろ事業を見た時に新規事業の「若者と県民企業のつながり創出事業」は企業側としてはうれしい事業である。「山口しごとセンター」の取組は他県では少ないと言われているし、「やま建Navi」といった建設業に特化したWebサイトもある。これら既存のものを他の業種にも充実していただきたいと思う。

私もジョブフェア等に企業側としてではなく、生徒と一緒に参加した際に、そのようなイベントに参加できる企業はある程度規模が大きく、人材の余裕がある企業でないと難しいと感じた。小規模な企業はツール作成や出展時に人材が割けない難しさがあり、これに関する支援を県のほうでもしていただければ、まだまだ県内には名が知られていないが、力を持った企業があることを生徒に知ってもらう機会になると思う。

また、「学校マネジメント力強化推進事業」について、校長は民間から採用しても良いのではないかと思った。学校を会社に置き換えると校長は経営者であるため、見る視点が違ってくると思う。モデル事業として、小中高校の校長を公募して民間から採用する形も一つの手だと思うし、教員の負担も軽減できると思う。たくさんの素晴らしい施策があるので、しっかり進めていただくと同時に効果がない施策があれば、やめる勇気も必要であり見直しなども進めていただきたい。

●村岡知事

広島と福岡で企業の紹介等や経営コンサルタント等職種を紹介している事業を行っている。一旦県外へ出る人が非常に多いため、企業による魅力の情報発信や県内企業の紹介を行い、県内に興味を持っている人たちに再び山口県に戻ってきてもらいたいと思う。企業がイベント出展する際のサポート事業もあり、是非活用してもらいたい。大事なことは知る機会を増やすこと。小学校、中学校、高校それぞれの段階で県内企業を知ることとはすごく大事である。最近の政府の調査結果では、県内に戻ってくる属性を調べると、県外に出る前に県内の知っている企業が多い人ほどよく戻ってくるし、県内企業を全然知らない人はなかなか帰ってこない。もっと早い段階から知る・関心を持つことを地道に取り組むことは大事であり、そのような事業も今年度は充実している。

また、アバターを使用したバーチャルでの企業訪問がある。コロナ禍に始めたものだが、実際に訪問できなくてもバーチャルで参加することで実際に企業を訪問している体感から具体的に分かるということで結構人気があると聞いている。各企業が人材難で苦労されていると思うが、我々もPRをしてサポートしていきたい。

●繁吉教育長

校長の公募制導入について、他県では実施している県もあり一長一短があると聞いている。私も教育長として、校長に経営感覚は身に付けてもらいたいと感じている。しかし、教育現場で様々な経験を積んできた人に校長を務めてもらうことが一番だと思っている。管理職になるときに1年間民間企業で経営感覚等を学んでもらう研修制度も設けているし、経済同友会や経営者協会と様々な形で民間との交流を図っており、学校経営をどのようにしていくかというこ

とを、民間の知恵を取り入れながら活用していくところからスタートしたいと思っている。その先にもしかしたら公募制が出てくるかもしれないが、現在はそこまでは考えていない。先ほど知事からもお話があったが、最近テレビのコマーシャルで、結構県内企業について放映されている。私も見た時に、県内企業の採用や世界でも特色ある取組、こういった材料を作っているなどアピールしているように感じる。私も知らないことが結構あったが、企業の取組を知れたので、子どもたちも見えて選んでもらえたらと思う。

●村岡知事

何をしているか分からない企業でもすごい技術を持っている企業があるので、知らせることは大事だと思う。実際就職するときに最近子どもが親に確認したり、親が企業を決めたりすることがあり、親が企業を知っていると良い面もあるので、企業も今切り替えていると感じる。

●繁吉教育長

産業労働部労働政策課でも企業に自社のアピールをできるようなシートを作成してホームページに掲載し、高校の就職支援で保護者との面談で閲覧できる取組をしている。中小企業でも出せる部分があるので、活用してもらいたい。

●伊藤委員

山口県は人口減少が顕著に表れている。教育委員として中学校に視察に行き、山口県が大きな問題を抱えていると感じた。しかしながら、知事を中心に頑張っていることを皆さんにお伝えしたい。故郷への心を育み、未来へとつなぐ中山間地域の挑戦として、先日、美東中学校の先進的な取組を視察してきた。美東中学校での素晴らしい実践例だが、地域との密接な連携をされ、生徒たちは地域の伝統的な誇り銅山祭りに積極的に参加し、観光客へ地域の歴史や文化を自らの言葉で紹介することを通して郷土の価値を再発見している。この第三者に伝えるという経験が、受け身の学習ではなく深い理解と後世に伝統をつないでいこうという当事者意識を育んでいると思った。さらに、この学びは地域内にとどまらず修学旅行で奈良を訪れ、自分たちの故郷の魅力を英語で世界に発信するという挑戦がニュースで話題になったようである。地域学習から世界へ、この連続性のある探究的な学びは、生徒たちに広い視野と自らの故郷に対する客観的な視点を与えていると思った。地域連携教育再加速化事業の今後にさらなる期待をする。

●村岡知事

美東中学校の取組について話していただいた。地域に子どもたちが関わっていき、地域の人たちもサポートするといったコミュニティ・スクール等の取組で、全県で非常に力を入れて取り組んでいる。それぞれの形ができていて、地域、学校ごとの取組があるが、そのような素地が山口県はすごくあるということをも私知事就任以来感じてきたところである。これは都市部ではなかなかないこと。さらに優れた事例をどんどんと目指していただき、地域を見て、自分たちの取組について良い横展開を図れると良いと思っている。

子どもたちが学ぶことも、地域への愛着や継承といった大切な思いにつなが

っていくところは大きいと考える。地域の方々の助けや環境を大切にしながら、これからさらに発展していければと思うし、知事部局もサポートをしていきたい。

●廣兼委員

子どもたちにとって学校は安全・安心で楽しく学び、自分自身を成長させる場だと思っている。笑ったり怒ったり、いろんな表情から学校での出来事をいつも話してくれることで子どもたちの成長を感じている。その安心・安全な環境である学校の中で、悲しいことに、いじめ・不登校につながる出来事が起きている。資料にあるこれだけの取組や事業をもってしても深刻化している現状がとても気になっている。相談機関がいろいろあるが、そこに行って自分の思いを述べることができる子、そこにも行けない子、様々である。そのような子どもたちの声をなんとかすくい上げて、一人でも多くの子どもたちが楽しい学校生活を送れるようになってほしいと思っている。

また、最近は急な天候の変化や豪雨、さらに熊の出没がある。我が子の小学校区にも早朝に熊が出没し、市教委から熊よけの鈴を借りることができた。登下校や下校後の生活の中で周りに大人がいない時、そのような状況になると、いざという時には自分で判断し、自分の身を自分で守るという行動をとらなくてはならない。防犯・防災に関しての学びを教育現場だけに任せるというわけではないが、意外と親よりも子どもたちは先生や警察の方、地域の方から教えてもらおうと学ぶ。野生の熊がどれだけ危険かを親から伝え、家庭の中でもしものが起きた時の行動の取り方を情報共有することも必要だと思っている。学校での防災教育について、学校内だけではなく登下校も含めての教育も必要だと感じている。これだけの取組や事業がある中で育っていける山口県の子どもたちは本当に幸せだと思う。引き続き子どもたちが安心して学べるように、教育環境の整備充実に取り組んでいただけると本当に嬉しい。

●村岡知事

いじめと不登校は本当に問題であり深刻化している。スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの充実について、次第に図ってきているがもっともっと体制をしっかりと強化しなければならないと思う。子どもが抱えている問題についてきめ細かく対応できるような施策を充実していくことが大事だと思っている。

熊や防災について、子どもたちが日々登下校の時に、事態に対して適切に対応できるように学んでもらわなければ、いざという時に大変だと思う。個別具体的な指導なり教育ができるようにすることも大事だと思う。熊が本当に市街地に出るようになってきている。これは本当に怖いこと。去年山口市にも出たと目撃情報があった。全国的にも出没が増え他県では狩猟対象になっているが、広島県、山口県、島根県の西中国地域はツキノワグマの保護対象地域である。県東部のほうは熊の生息地域だが、だんだん西部へ移ってきている。目撃情報も非常に増えているので、個体数をもう一度、国にきちんと調査をしてもらい、狩猟対象とすることの可否について議論してほしいと三県共同で提言している。

実際に街に出没した時に銃を使って対処など、制度的にも改善がされている。ただ、実際は銃を撃てる人材がいないという問題があり、この人材育成につい

ても同時に進めることが大事である。一方で、子どもたちがいざという緊急事態に対処できるだけの知識や行動をきちんと身につけてもらわなければいけないので、地域や市町教委と連携して是非お願いしたい。

●繁吉教育長

県教委では、令和7年度の重点取組や令和8年度の重点取組方針（案）に沿って取組を進めていきたいと考えている。本日は特にその中でも主要な取組に関して発言をさせていただきたい。県政の最重要課題である人口減少、その克服に向けて、県教委ではこれまでもふるさとへの誇りと愛着を育み、地域の産業・社会を支える人材の育成に取り組んできたところである。今後これらの取組を深化し、ふるさと山口の創り手となる人材を育成するためには、本県の強みであるコミュニティ・スクールの連携・協働体制を生かした山口県らしいキャリア教育を推進していくことが重要であると考えている。

そのため、県教委ではこのふるさと山口の未来を創る心意気というか、志、想い、を「やまぐちPRIDE」という一つの言葉に集約をして、これを新たな山口県教育の一つのシンボルとして「やまぐちPRIDE」という言葉を掲げ、学校・家庭・地域・産業界等との連携・協働体制を一層充実させ、体系的・系統的なキャリア教育を推進することで、主体的に地域の未来に貢献する人材の育成に取り組んでいきたいと思っている。

こうした中、知事の冒頭の挨拶にもあったが、本県の地域産業を支えていく人材の育成に向けて、工業高校をはじめとする専門高校等の教育現場の整備や魅力の向上、こちらは本当に喫緊の課題だと捉えている。産業界と連携した実践的で質の高い教育活動の展開、こちらはもとより、デジタル化など社会の変化やものづくりの現場に対応した先端的な設備・施設、それから教育内容を充実させ、高校の特色化・魅力化を図ることで、生徒や保護者にわかりやすく、選ばれる学校づくりに取り組んでいきたいと考えている。引き続き知事部局や関係機関等との緊密な連携のもとに進めてまいりたいと考えているため、本県教育の振興に関する支援をよろしくお願い申し上げる。

●村岡知事

コミュニティ・スクールの話もあり、そのなかで、「やまぐちPRIDE」はとてもいいフレーズだと思う。やはりそういった心もきちんと子どもたちに持っていていただきたいと思うし、実際の教育の内容としては、高校無償化などで大きく環境が変わる中で、人材をしっかりと育てていくために、工業高校をはじめとする専門高校等の魅力を高めることにさらに力を入れ、しっかりと知事部局としてやっていきたいと思う。

それでは、「令和8年度重点取組方針」について、本案のとおり進めていくこととして、よろしいか。

（委員から「異議なし」の声や頷きの反応あり）

それでは、いただいた御意見を十分に活かして、今後の事業の推進、施策の構築をしっかりと進めていきたいと思う。

(3) その他

●村岡知事

本日は、「令和8年度重点取組方針」(案)についてお諮りし、御了解をいただいた。また、「令和7年度の重点取組方針」の取組状況についても御報告させていただいた。本日、皆様からいただいた御意見、御提言をしっかりと踏まえて、来年度の具体的な取組内容等について、これからさらに検討を深めてまい

る。
地域課題が多い中、未来や地域を担っていく人材育成は大変重要なテーマである。教育委員の皆様方には引き続き、本県教育のさらなる向上に向けてお力を添えていただければと思う。我々知事部局としても教育委員会とよく連携をしながら、これからの未来の人づくりについてしっかりと取り組みたいと思っている。皆様方におかれても、引き続き、教育委員としてのお立場から、御理解、御協力を賜ることをお願い申し上げ、まとめの挨拶とさせていただく。

6 閉会(事務局)

(以上)

※ 上記については、事務局がまとめたものです。